

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 8月号

2018年8月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：與儀 篤（中部徳洲会病院）

研修参加報告

第66回日本医療社会福祉協会全国大会(香川大会)参加報告

平成30年6月15日～6月17日

ハートライフ病院 医療福祉相談室 望月 祥子

うどん県高松市にて開催された全国大会に那覇市立病院樋口美智子氏、大浜第一病院當銘由香氏と3名で参加しました。沖縄では台風6号発生の中、高松は晴天に恵まれ、会場には全国から約700名のMSWが集まり、シンポジウムや分科会に参加しています。

今回は私が参加したプログラムの中から、印象深かったシンポジウムで得たキーワードについて報告します。ソーシャルワーカーとして足元を見つめ直す機会となりました。

シンポジウム『人生の最終段階における意思決定とは？またその支援とは？～ソーシャルワーカーに期待すること』

厚労省「人生の最終段階における医療の普及・啓発の在り方に関する検討会」構成員の中から5名の方が登壇されました。MSW・ジャーナリスト・哲学者・弁護士・訪問診療医の5名です。

○ACP アドバンスケアプランニングは元気な時にもしもの場合のことを考えておくこと。ACPを広げようと医療関係者がとびついた。ACPを広くとらえて、もしもの場合以外についても話合われ、医療ケアプランニングについて考えられるようになった。

○決めておきたい医師と迷う患者さんとの間にMSWは挟まれる。病院の職員としてのMSWの立場はあるが、今よりも少し、迷いゆれる患者側の思いに寄り添うことがMSWに求められる。

○ACPが社会全体に浸透するには時間がかかる。MSWは現場で「患者本人のためになることでしょうか」と訴えていくことが必要。

○支援者であるMSWの言葉や行動の「矢印」がMSW自身に向かっていませんか？「支援してあげたい」「ちゃんと答えを出したい」等の思い、それは患者さんではなくMSW自身に向いている。

○ACPのガイドラインは「医療側のエビデンスに基づく価値」と「患者本人の価値観や人生観」を擦り合わせていく時に、上手に使用するためにある

日々意思決定の場面に立ち会うことが増えてきています。ACPについてきちんと理解をした上で支援しなければ、MSWは患者さんの未来を間違った方向に誘導する可能性があることを自覚しなくてはならないと感じました。

来年の全国大会は2019年6月7日～6月9日に神奈川県川崎市で開催されます。

今月の contents

今月の contents		
全国大会参加報告	ハートライフ病院 望月さん	1
初任者研修報告	大浜第一病院 與座さん	2
圏域報告(北部)	勝山病院 山城さん	3
自主勉強会	めだかの学校等報告等	3
新入会お知らせ	翔南病院 池宮城さん	5
研修部だより		5
理事運営会議録	7月定例理事会	6
はいさいワーク	那覇市立病院	8

初任者研修参加報告

平成 30 年 7 月 20 日
大浜第一病院 医療福祉課 與座 千夏

6月10日に仲地胃腸科内科クリニックで行われた初任者研修会に参加しました。始めに、樋口会長による医療制度改革の変遷とMSW業務を説明していただき、戦後には既にあったMSWという職種が発展し始めたのはつい最近の事で、これからますます発展していくと予想できるため、しっかり基本を押さえておかなければならないと感じました。また、MSWの役割は傷病による生活上の困難に対して適切な対応をする役割であるということ学びました。

次に、沖縄国際大学の宮良先生によりMSWの価値と倫理についての説明をしていただき、学校でも学んできたものの実際に今までの面接に当てはめてみると全く出来ていなかったことに気づき、基礎としてこれからの価値や倫理、バイスティックの7原則などを持てるようアセスメントだけに集中してしまうところを注意しようと思いました。また、学校で習った価値や倫理を改めて学ぶことで、言葉の理解度が全く違い、より深く落とし込むことが出来たように思います。

午後には、医療機関機能別専門知識として【急性期】・【回復期】・【緩和ケア】・【精神科】について、それぞれの機能や役割を学びました。まず、【急性期】では、同じ急性期病院だとしても退院支援看護師との役割分担など病院によってやり方には違いがあるのだと知りました。また、私は感情論で考えてしまうところがあるので、どのような効果を意識した動きというのは今後とても重要なポイントになると感じました。次に【回復期】では、対象かどうかの練習問題や調整のポイントなどがあり、これからの転院調整等に有効に活用していきたいと思いました。さらに、急性期病院のMSWとの比較から、関わる事が出来る時間、患者様自身による現状の受容などによってMSWの役割の変化を感じる事が出来ました。【緩和ケア】は、最期を迎えるのを待つのではなく、最期まで自分らしく生きるための手助けをするのだと知りました。そのために患者様に寄り添い、存在や尊厳を大切に、チームで関わっていくのだと理解出来ました。最後の【精神科】では入院形態の違い、精神科における退院支援を学び、精神疾患は見た目ではわかりにくく怖いイメージを持たれることもあるけれど、病気で判断せず、患者様自身を一人の人として捉えることを忘れてはいけないと感じました。

今回の研修では、MSWの変遷や価値・倫理、機能ごとのMSWの役割などの基本的な事を多く学び、私自身にも、知識だけでなく考え方に変化がありとても有意義な勉強会になりました。今回学んだことを業務に活かせるよう意識していこうと思います。



在宅医療・介護連携北部圏域報告

テーマ 北部地区医師会 在宅医療・介護連携北部圏域状況報告

平成30年7月17日

勝山病院 地域連携室 山城つきえ

平成30年7月3日に今年度第1回在宅医療・介護連携推進事業委員会が北部地区医師会のある北部会館で18時30分から20時まで開催されました。構成員は前年度に引き続き、在宅診療担当医3名、訪問看護1名、ケアマネ2名、名護市包括支援センター1名、市町村高齢福祉担当1名、北部担当コーディネーター、医師会事務局2名の11名です。平成29年2月から5回の委員会と研修会が開催され、地域資源や医療、介護連携に関する現状を、地域コーディネーターを中心に意見交換しました。

平成30年2月20日には北海道の道南勤医協江差診療所所長の大城忠先生をお招きし『やんばるの看取りについて考える 介護施設での看取りについて』をテーマに第一部で講演して頂き、第二部では『北部地域で看取りを行うためには何が必要か』をグループワークでディスカッション、入院中に自宅での看取りの希望があり病院看護職員が患者様宅に泊まりでサービス提供したケースあったなど活発な意見が交換されました。講演会では看取り経験のない介護施設職員に先生と一緒に寄り添い支援し、安心して人生の最期を暮らす施設になるまでの取り組みが紹介され、臨床倫理4分割(M医学的なこと P(患者様の意思望み)Q(生きることの質)C(周辺状況)理論や老いの自覚、終末期 在宅関わる医師の少ない地域での多職種連携の構築・・・“最期の人生に医者には要らない。思いのある人たちがいてほしい”と話されていました。一部は188名、二部は158名の参加でした。

今年度は中南部の取り組みを参考に事業の体制図作り、3検討部会を立ち上げる予定です。

1、入退院支援における連携対策委員会 2、生活の場における連携対策委員会 3、人生の最終段階における連携対策委員会で構成員も幅広く声かけ行う予定で、入退院支援連携委員会には急性期病院の参加の調整依頼を提案しています。その中で連携マニュアルやんばる版を完成できたらと願っています。

自主勉強会報告

めだかの学校

平成30年7月18日

北中城若松病院 相談課 安里 愛理

7月18日(水)中頭病院にてめだかの学校が開催されました。

今回は「急性期病院の退院支援・SW業務について」というテーマにて、中頭病院MSW秦克之さんを講師にお招きし、ご講話頂きました。

急性期病院は回転が早く患者・家族と関わるのは1ケースあたり平均2回の介入であり、支援を考えて提供していると、ケースは動き退院されている。介入回数が少ない中で支援が必要な方を探しだし、必要な方に必要な情報提供をしていく為、瞬時の判断力が求められる。MSWはいなくてもベッドは回転していく中で、介入の必要性とはいきなり発症した疾患に対し気持ちがついていかない状況であり、人の手が介入することにより、転院・退院する意味に繋げていく。しかし、患者・家族の希望に配慮はできるが、全てに応えられるわけではない為、支援の過程をみせてあげることも大切である。病院同士の連携や患者・家族が困らないために他職種から仕事を引き受け対応している。MSWの役割とは患者・家族の意思決定支援を助ける役目であると学びました。

回復期病棟を担当し、1年が経過しますが1ケースあたりにかけられる時間は多く、その中で急性期以上の支援が出来る状況にあるが、実際に行えているのかと考えさせられました。今後ケース支援にあたる中で、自身の役割を意識しながら必要な知識・価値・技術を身に付け患者・家族の意思決定支援に努めていきたいと感じました。参加者の悩んでいる事例についても助言して頂ける時間もあり、とても充実した勉強会となりました。今後も勉強会へ参加していく中で学びを深めていきたいと思えます。

めだかのホームルーム

平成 30 年 7 月 4 日
沖縄協同病院 地域連携課 玉那覇 夏汀

みなさんこんにちは。日々の業務お疲れ様です。

去った7月4日(水)に行なわれた、めだかのホームルームについて報告させていただきます。

めだかのホームルームは、経験年数4年以上のMSWを対象とした自主勉強会です。

今回の参加者は8名、久米島にいる県立久米島病院・新垣美鈴さんと「ハングアウト」なるものを使用し、パソコンで顔をみながらお話をしました！！(すごい！)

県立久米島病院で行っている医学部生実習では、多職種と協力し退院調整を行う実習があるそうです。新垣さんが医学部生と一緒に支援を行った事例発表と、「退院支援の視点を通してソーシャルワーカーの独自性をどう伝えるか」に関して、みんなで話をしました。

また、社会資源が限られている環境で、地域住民やインフォーマルサービスがどのように関わっており、行われているのか、たくさんのお話を聞かせて頂きました。

研修などで学んだはずの「ソーシャルワークとは」というテーマ。いざ言葉に出そうと思うとなかなか出てきませんでした…。

そんな中、先輩方からは様々な意見が出ており、とても勉強となりました。

久米島から参加、発表して頂いた新垣美鈴さん、本当にありがとうございました！

めだかの放課後

平成 30 年 6 月 28 日
大浜第二病院 医療福祉課 安慶名 真樹

6/28に中頭病院でめだかの放課後メンバーで行った自主勉強会の内容を報告します。

H30年3月に、県MSW協会で、各病院のMSW・PSW・退院支援看護師・医師を対象に、「那覇市の介護保険申請～認定に関するアンケート」調査を行いました。その集計作業が終わり、膨大な量のデータの分析作業を、めだかの放課後メンバーを中心に行っているところです。介護保険申請から認定までかかる手続き時間の捉え方について、急性期・包括・回復期・慢性期によって特徴があることや、患者に不利益にならないために私たちが働きかけていく必要があることなどが、このアンケートを通して明らかになってきています。

アンケートの回答が膨大な量で、まとめるのに時間がかかっていますが、回答して下さった皆さんへの情報提供と、今後市町村と情報共有の継続を検討しています。今しばらくお待ちください。会員の皆さんも、制度利用に関して色々な思いがあり、日々患者さんの為に奮闘していることと思えます。今後も力ある職能団体をめざして、めだかの放課後メンバーも頑張っていこう！と一致団結して今後も活動に取り組みたいと思えます。



新入会員紹介

翔南病院 地域医療連携室
池宮城 万知子

中部地区への引っ越しを機に、心機一転、翔南病院へ転職し早1年が経ちます。
初めての病院勤務は、分からない事が“分からない”状態で毎日が「何それっ!？」の連続！
諸先輩方からの温かい励ましとフォローにたくさん助けられ、毎日が勉強の日々でした。
また、経験の未熟さ、不甲斐なさに心がぼっきり折れそうになった時には、趣味のダーツに出掛けたり、愛犬達との散歩で気分転換をし、気持ちを奮い立たせた1年でもあったように思います。
今後は、前方支援だけではなく後方支援として入退院の調整へも携わっていきます。
これからも常に、学ぶ姿勢を持ち続け邁進していきますので、よろしくお願い致します。

研修部だより

初任者研修会(おおむね経験年数3年未満)

テーマ	アセスメント、記録について、退院援助①②
日時	平成30年8月12日(日) 9:00受付 9:30開始
会場	後日、案内します。
参加費	会員:無料 非会員:3,000円
問い合わせ	北中城若松病院 医療福祉相談課 香村

めだかの学校(おおむね経験年数3年未満)

テーマ	精神疾患患者の転院調整について
日時	H30年8月22日(水) 19:00～
会場	豊見城中央病院
参加費	無料
問い合わせ	大浜第二病院 医療福祉課 謝敷

めだかのホームルーム(おおむね経験年数3年以上)

テーマ	スーパービジョン 急性期病棟の事例
日時	H30年9月5日(水) 19:00～
会場	中頭病院
参加費	無料(飲食代100円)
問い合わせ	沖縄協同病院 地域連携課 松永

めだかの放課後(経験年数5年以上)

テーマ	介護保険申請～認定まで アンケート分析
日時	H30年8月30日(木) 19:00～
会場	中頭病院
参加費	無料(飲食代200円)
問い合わせ	大浜第二病院 医療福祉課 當銘

7月理事運営会議録

日 時:2018年7月17日(火)18:30～20:30

場 所:沖縄県総合福祉センター ボランティア室

出席者(敬称略):樋口、新垣、香村、伊禮、望月、安慶名、長、石郷岡

1. 専門部会からの報告事項と検討事項

1)研修部(香村理事)※資料参照「研修部だより ～平成30年8月以降の予定～」

【報告事項】

(1)初任者研修 7月29日 大浜第一病院 2F 研修センター 講師のスライド提出 7月25日
8月12日 場所未定

(2)めだかの学校 8月22日 豊見城中央病院にて「精神科病院への転院調整について」

(3)九州医療ソーシャルワーカー研修会 沖縄大会 8月31日発表申し込み締め切り

・参加費金額、座長、懇親会会場など順次決定している。

・広告募集開始 目標100件

・来賓表敬訪問 県知事、開催市町村長(那覇市)、県主管課(保健医療部)、職能団体の長
樋口会長と実行委員で訪問する。

(4)H30年度デザイン事業 専門研修

小原真知子先生「SWによる退院支援における実践の自己評価」来春開催予定

今後の事業展開について

→各職能団体や自治体が目指している方向性など情報交換・情報共有するシンポなど

【検討事項】

初任者の事例検討会について

昨年未実施であり今年度は実施したいが、事例提出が初任者の負担となっている。(研修部長)

専門職としての実践において事例検討は、研修方法として重要な位置づけ。(会長)

→「事例のまとめ方学習」など方法を工夫して継続する。

2) 社会活動部(秦理事)

第8回 県民健康フェア 8月19日(日) ブース担当: 昨年と同様に各病院に振り分ける。
琉球新報 論壇に投稿(樋口会長)

3) 広報部(安慶名理事)

- (1) ニュース 8月号担当: 与儀さん(中部徳洲会)
- (2) ホームページ: 研修情報を掲載していく。(研修予定・実施した研修)
- (3) メーリングリストの整理→事務局、各部会の会長、副会長も加える。
管理者の奥平理事に新垣理事が連絡をとる。

4) 事務局

- (1) 今後事務員がニュースレター封入・発送作業を行うために同封物の集約をどうするか。
- (2) 理事会 Web 会議 → 遠距離の理事が参加できる。

【検討事項】

- ・会計ソフトの導入(弥生会計) 家電量販店(83000円) ネット購入(64,000円)
→ 安価な方法で購入。
- ・事務員 2名分の労働保険・社会保険について
書類手続きを大城労務管理事務所に代行依頼することについて 事務委託料 30,000円/年
→ 承認。

2. 渉外 沖縄県ソーシャルワーカー協議会 7月期 定例代表者会報告(樋口)

- ・社会福祉公開セミナー・ソーシャルワーク学会 2019年2月23日(土) 沖縄国際大学
実行委員会立ち上げ 7月25日(水) 19:30~ 出席予定: 宮城(中頭)、島袋(沖リハ)
- ・琉球新報 福祉の窓 出席者 嘉陽、島袋
- ・県知事選について 公開質問状を8月迄に各団体が2つずつ提出。当協会が取りまとめる。
- ・海外社会福祉研修等の実施
- ・ソーシャルアクション事業 生活保護基準の引き下げに係る影響緩和への取り組みを求める
- ・ソーシャルアクションの実施について PSW 協会が送付準備
- ・ソーシャルワーカーデイ 7月16日(月) 琉球新報論壇 保良先生が投稿する。
- ・渡真利源吉先生を偲ぶ会 10月予定

3. 行政機関に対する介護保険申請アンケート(新垣理事)

8月初旬に懇談要請

4. 次回理事会 8月20日(月) 司会/又吉 書記/安慶名 連絡/望月

はいさいワーク

事業所名	地方独立行政法人 那覇市立病院
応募資格	社会福祉士の国家資格を保持していること
雇用形態	ホームページ掲載参照
勤務時間	8:30～17:15 月～金(部署により早出あり)
担当者	医療福祉相談室 樋口 美智子
連絡先	098-884-5111(内線:127)

編集後記

7月は私にとっては肉体的にも精神的にも全く余裕の無い月でした。いろいろな業務が重なりかなり忙しかったため、「忙」という字の如く、おそらく心をなくしていたのでしょう。何をやっていたのかあまり記憶がありません。私の事ですので、おそらく毎日、しかも面で業務にあたっていたのではないかと思います。周りのスタッフはさぞ気を遣っていたことでしょう(笑・・・！？)。今月を振り返ってみて、自分は周りに求めているばかりであったなと気づかされ反省…。そんな私に手をさしのべてくれたスタッフ達に恩返しすべく、8月は忙しい中でも笑顔が心がけて、心穏やかに頑張りたいと思います。さあどれだけできるやら～

今回ニュースの作成にあたり、忙しい中快く記事を提供して頂いたMSWの皆様には厚く御礼申し上げます！！これからも暑い日は続きますが、業務も熱く頑張っていきましょう。熱くなりすぎて、くれぐれも熱中症にはお気を付けてくださいね！

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ

～医療と福祉の架け橋～ 一般社団法人
沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
Okinawa Association of Social Workers in Health Services

HOME MSW協会について 入会手続きのご案内 MSWの役割 MSW配置医療機関 沖縄県入退院支援事業

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会では
皆様からの入院・介護に関するご相談を
医療ソーシャルワーカー(MSW)が
お受けしております。お気軽にご相談ください。

About us

MSW協会について MSWの役割 MSW配置医療機関

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

当協会のホームページのトップページです。ぜひご参照ください。